



# 株式会社シード

スパム検知後の柔軟な処理手法が導入を後押し  
スムーズな移行と大幅なコストダウンを実現した  
アンチスパムサービス

## 【ご利用のサービス】

アンチスパム

## 【導入の経緯】

### コストダウンを目指したシステムインフラ刷新

1Dayや2Week、遠近両用、乱視用など顧客のニーズやシーンに合わせた様々なコンタクトレンズを市場に投入し、同時にケア用品や眼鏡など“見える”をサポートする各種事業を展開している株式会社シード。50年以上にわたってコンタクトレンズをはじめとするアイケア製品を提供している同社は、国内一貫生産による安心安全を提供することで純国産としてのブランド戦略を展開、超薄型やUVカットなど瞳に優しいコンタクトレンズを開発するなど幅広いラインナップによって顧客から幅広い支持を集めている。

そんな同社がネットワークを含めた全体のシステム見直しに着手したのが2008年4月から。「システムの再構築により、高水準のセキュリティ維持と全体的なコストダウンを目指しました。」と語るのは、経理・情報システム部 情報システムグループ 係長の横山 智氏だ。その中で、従業員あてに届いていた迷惑メール、いわゆるスパムメールへの対策についても、新たな方法を検討することになったという。

## 【選定のポイント】

### 柔軟なスパム処理手法と シマンテックグループとしての実績が決め手に

これまでスパムメールへの対策は、通信事業者に委託していたファイアウォールサービスの一部機能を利用して行われていたが、スパム検知後の処理について課題があったと横山氏は当時を振り返る。「スパムメールの通知方法は、メールのタイトルに“迷惑メール”などのタグをつけて各従業員に配信することしかできませんでした。」さらに、そのスパムメールの検知率についても疑問を持っていたという。「タグが付けられるスパムメールは、私の実績ではわずか月に2件程度。その代わりに、毎日20件あまりのスパムメールがタグなしで私の手元に配信されていました。ほとんどのスパムメールが正しくスパムと判定されていなかったのです。」こういった検知水準の中でビジネス上重要なメールが遮断されてしまった場合に確認する術がないことへの危機感も同時に募らせていたという。

そこで、コストダウンを図りながらスパムメール対策を強化するため、インターネットで情報収集を行い、アプライアンス製品やサービスを5つほど検討した横山氏。しかし、冗長化を含めた初期導入コストはもちろん、チューニングやバージョンアップなど運用コストがかさむため、アプライアンス製品は選定から除外したという。そして、アプライアンス以外の選択肢から選ばれたのが、スパム検知後の柔軟な処理が可能となる、シマンテックグループのシマンテック ドットクラウドが提供するクラウド型のサービスだった。「スパムメールの概要を従業員ごとにダイジェストメールにて通知できるなど、柔軟な運用が可能な仕組みを高く評価しました。また、当社で採用しているクライアントPC側のアンチウイルスソフトがシマンテック製品だったことも理由の一つです。統合的な管理によって運用負荷が軽減できることはもちろん、その実績を高く評価した結果です。」と横山氏。



## お客様情報

株式会社シード

### 【設立】

1957年10月9日

### 【本社所在地】

東京都文京区本郷2-40-2

### 【代表者】

代表取締役社長 浦壁 昌廣

### 【概要】

純国産のコンタクトレンズメーカーとして、50年以上にわたってコンタクトレンズやケア用品、眼鏡など各種アイケア製品を提供。超薄型やUVカット付コンタクトレンズをはじめ、遠近両用や乱視用などニーズやシーンに合わせた幅広いラインナップで事業を展開。



## ◆取材対応者

経理・情報システム部  
情報システムグループ 係長  
横山 智氏

## 【導入の効果、運用】

30%を超えるコストダウンに成功！  
スパムの可視化も実現

この度、株式会社日立情報システムズが提供する「メールセキュリティ on-Demand」（シマンテック ドット クラウドの技術、インフラを利用したサービス）を採用し、全国15ヶ所の営業所を含めたおよそ260人で利用している。スパムメールと判定されたものはシマンテック ドット クラウド側で用意されている従業員ごとの隔離フォルダに保管され、1日1回のダイジェストメールにてスパムメールの概要を確認できる状況だ。必要なメールが隔離されていた場合は、管理者に報告を行っているという。ただし、導入して1年あまり経過しているが、報告自体はわずか数件であり、その検知率の高さが運用コストの削減に大きく寄与している。「従業員ごとに確認できるようになり、貴重なメールが破棄されていないかという当初の懸念は払しょくできました。初期導入コストや運用コストも含めると、およそ30%あまりのコスト削減が実現できたこととなります。」と横山氏。

同時に、全体のメール流量が減少したことでメールサーバの負荷も減り、さらにこれまで見えなかったスパムメールを可視化できるようになったという。「今後スパムメールへの対応を計測する際にも、統計的な情報をもとに実情が把握できる環境を整えることができました。」

なお、今回は通信事業者のサービスからの切り替え作業を行ったが、MXレコードの変更のみでスムーズに移行することができた。導入時にも大きなトラブルはなく、現在でも順調に運用を続けている状況だ。また、従業員に対する教育についても特別なことは行っていないと横山氏。「新たなサービスに切り替える旨を

グループウェア上で通知し、簡易的なマニュアルを掲示板に掲載しただけです。ダイジェストメールに記載されたURLをクリックするだけで隔離されたスパムメールが確認できるため、現場の混乱もなく簡単に実運用に取り込むことができました。」使いやすさの面も評価ポイントに挙げている。

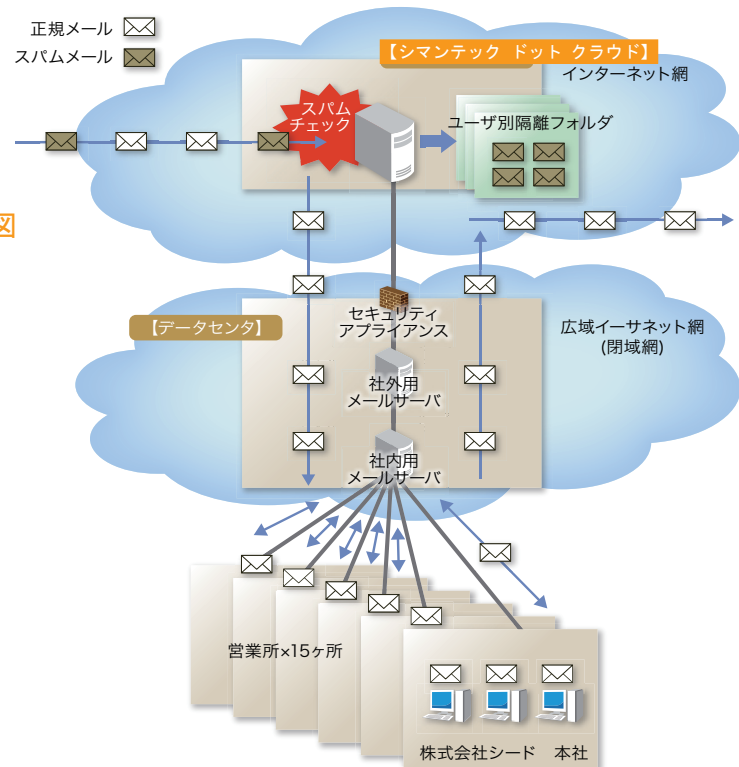
今回のシステム刷新では、導入からサポートまでを一括して株式会社日立情報システムズが行っているが、「特に問題もなく円滑に使えています。使いやすいシステムを提供いただき、大変感謝しています。」と横山氏は満足げだ。

## 【今後の展望】

メールサーバ統合時の  
セキュリティ強化策として期待

今後について横山氏は、「セキュリティの観点から、現在は社内専用と社外とのやり取りに使われるメールサーバを分けて運用しています。将来的には統合したいと考えており、その際に必要なメールセキュリティについて、活用できるサービスがあれば検討したいと考えています。」と語る。社内専用のメールサーバは全従業員が利用するコミュニケーション基盤の中核となっているが、社外に向けたものは特定の人のみが利用できる状態にある。これを統合する際に、アンチウイルスや暗号化、メールアーカイブなど、シマンテック ドット クラウドが提供する、また将来的に日本で展開予定の各種サービスも含めて改めて検討したいと横山氏。また、同社が提供する管理画面のレポート機能の拡張など、その継続的な機能拡張にも期待を寄せていると語っていただいた。

システム構成図



## 【お問い合わせ先】

シマンテック ドット クラウド  
メッセージラボ ジャパン株式会社

〒107-0052  
東京都港区赤坂 1-1 1-4 4  
赤坂インターシティ  
株式会社シマンテック内  
TEL 03-5114-4540  
info\_cloud@symantec.com  
http://www.symanteccloud.jp